

古い小学校

夕暮れ時の学校ってどうしてあんなに寂しく感じるのでしょうか？
昼間が子どもたちの声であふれているからなのでしょうが、
子どもたちの姿がなくなった途端、

「学校」は別の場所になっていくのかも知れません。



同居している祖母の古い友人が亡くなった。

どうしても葬儀に出席したいと言うので、自宅から車で片道2時間以上かけて、ボクはこの小さな村にやって来た。

亡くなったその友だちとは、祖母が村を離れても手紙などでやりとりをしていたそうだ。

「村にはもう若い人たちは住んでいなくてね。何年かしたら、村もなくなっちゃうかもしれないわね」

そう祖母が教えてくれた。

葬儀の間、ボクは村の中をあてもなく散策していた。

着いたのは昼過ぎだったのに、山に囲まれた小さな村はもう暗くなり始めている。

荒れた田畑を抜けて坂道を登っていくと、開けた場所に古い小学校

が建っていた。

少し寂しげなチャイムが鳴り響き、数人の子どもたちが、にぎやかに笑い声をあげながら校門から出てくる。

これから家に帰るのか、もうすぐ暗くなってくる時間になっていた。うしろ姿を見送っていたが、こちらに気がついたのか、1人の女の子が振り返った。

そして、すぐに坂道を駆け下りて見えなくなってしまった。

ひさ 久しぶり

学生時代の友人、キラキラした未来を、
将来への不安を、ともに語り合った友人は
大切なあなたの「財産」です。
たとえ遠く離れていたとしても。



村にはもう「若い人たち」は住んでいません。
小学校は何年も前に「廃校」になっているのです。
子どもたちはどこに帰って行ったのでしょうか。